

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	第28回川西市参画と協働のまちづくり推進会議		
事務局(担当課)	総合政策部 参画協働室		
開催日時	平成29年10月27日(金) 午後6時から午後8時		
開催場所	川西市役所 4階 庁議室		
出席者	委員	相川委員、藏原委員、佐藤委員、 山本委員、仲井委員、中島委員	
	その他	市民活動センター 三井センター長	
	事務局	参画協働室長、同室主幹、同室主事	
傍聴の可否	可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の 場合は、その理由			
会議次第	1 開 会 2 議 事 (1) 川西市参画と協働のまちづくり推進計画について (2) その他 3 閉 会		

18 : 00～

1 開 会

○事務局

・本日、急用のため岩崎会長、田中副会長、中井委員、川口委員が欠席ということで聞いている。本来であれば会長が欠席の場合は、副会長に進行をお願いするという形になるが、本日は副会長も欠席されている。川西市参画と協働のまちづくり推進条例施行規則では、会長と副会長が欠席の場合でも推進会議の運営に関する事は、別途推進会議で定めることができると規定されているので、相川委員に進行をお願いしたいと考えているがいかがか。

・最初に連絡事項であるが、当初今回の推進会議が推進計画の改定について協議をする審議会としては最後になるということで案内をしていたが、現在の計画の策定状況を踏まえ、まだまだ検討する課題があることから、11月下旬にもう一度開催したいと考えている。後日、日程調整をするので、ご協力いただきたい。

2 議事 川西市参画と協働のまちづくり推進計画について

○事務局

・前回までは、推進計画の改定ということで、現行計画をベースに修正を加えていく形で進めていたが、今回は構成を一から見直している。

・ 3 ページから 6 ページ

「第1章 計画策定の目的と位置づけ」ということで、「計画改定の背景と目的」、「計画の位置づけ」、「計画の対象者」、「計画期間」をそれぞれ整理して記載している。

・ 7 ページ

「第2章 本市の現状について」ということで、人口等の推移や将来推計と各まちづくり主体の現状についてまとめている。前回の資料では、将来推計まで載せていなかったが、今回は掲載している。

・本市では、第1期計画の期間中、総人口は減少傾向にあり、高齢化率は増加傾向にある。今後もこの傾向は続くと見込まれている。

・ 9 ページ

各主体の現状について、主体ごとに現状や課題をまとめている。

・ 15 ページ、16 ページ

「第3章 第1期計画の取組み」ということで、第1期計画の総括をしている。前回の資料から、15ページの下のように「施策の方向」ごとの総括と16ページの取組項目の表の実施状況の欄のように、実施状況の詳細な説明を追加している。

・ 22 ページ、23 ページ

「第4章 第2期計画の基本方針」ということで、第1期計画期間中の本市の状況の変化を踏まえ、「本市の課題」を記載し、それを踏まえ、23ページに計画の基本理念、基本施策を記載している。

・ 24 ページ

「第5章 施策の方向と取組項目」ということで、新規の計画で取り組む内容を記載している。前回から施策の方向とそれに基づく取組みの一部組み換えを行っているが、前回の推進会議の時から追加した主な取組みを紹介する。

・ 28 ページ 「次世代の担い手の発掘」

前回の推進会議でも、高齢者の話ばかりで、若者についての取組みがないという話があった。将来の活動の担い手として、若者へアプローチすることが必要になるので、その方法について検討し、実行していくということで記載している。

・ 28 ページ 「コミュニティ組織の事務局員の支援」

コミュニティ組織の継続的には発展には、事務局員への支援が必要不可欠である。今後、事務局員が活動していくにあたって、必要なスキルや知識に関する講習会の開催や困ったときに相談できる体制の構築に努めていきたいと考えている。

・ 30 ページ 「コミュニティビジネスの促進に繋がる支援」

コミュニティ組織がめざす最終的な形とは、交付金や補助金がなくても事業を実施できるよう自立していくことだと考えている。そのために、コミュニティ組織自らが活動資金を調達できるようコミュニティビジネスなどのノウハウを学べる場を提供していきたい。

・ 30 ページ 「地域担当職員、地域づくりアドバイザーによる後方支援」

現在も必要に応じて地域担当職員や地域づくりアドバイザーが地域に入りアドバイス等を行っているが、第2期計画でも地域の自立に向けて、後方支援という形で地域と関わっていききたいと考えている。

・ 31 ページ

施策評価指標のところであるが、前回の推進会議時には、職員に関する目標指標を「仕事を進めるうえで、参画と協働を意識している職員の割合」の1つだけとしていた。これは、職

員に関する目標を羅列してもしょうがないという考えのもとに設定していたが、前回の推進会議でも、職員に関することはできるだけ記述したほうが信用されるという意見もあったので、現行計画と同じように、施策評価指標を増やしている。

○委員

- ・ 10月20日付で送付されたものから、どこを変えたのか目次で説明してほしい。

○事務局

- ・ 3ページ

10月20日付けで事前送付していたものからの変更点であるが、「第1章 計画策定の目的と位置づけ」のところで、事前送付をした資料では、「(2) 推進計画策定の経緯」の項目があったが削除して、「(1) 計画改定の背景と目的」の項目に入れている。

- ・ 7ページ

「第2章 本市の状況について」は、詳細の記述部分については変更を行っているが、章の中身は大きく変えていない。

○委員

- ・ 第2章のデータ部分はそのままとということか。

○事務局

- ・ そうである。

○委員

「(2) 各主体の現状について」のところが、事前送付の分では、「市民」、「自治会」、「コミュニティ組織」、「ボランティア団体」、「NPO法人」、「事業者」の6つに分けていたのを、最後に市（行政）を加えたのと、条例上、市民公益活動団体に整理されるので、独立させるのを止めて、「市民公益活動団体」の中に組み替えたということか。

○事務局

- ・そうである。
- ・市民のところでは、市民アンケートのところ、どのような形でアンケートをしたのかを記載していたが、これについては以前の推進会議で配布をした市民アンケートの報告書にまとめているので、アンケート方法などの細かい点については、省いている。

・ 15 ページ

次に「第3章 第1期計画の取組み」である。事前送付の資料では、基本施策ごとに状況と課題を書いていたが、それに加えて施策の方向ごとにも状況と課題を記載している。

・ 16 ページ

取組項目の表の実施状況について、事前配布の資料では、取組みを実施したか、していないのみの記載であったが、今回の資料では、実施状況について、詳細に記載している。

・ 22 ページ

「第4章 第2期計画の基本方針」のところ、事前送付の資料では、「(2) 参画と協働に対する各主体の役割」のところ、各主体の役割を記載していたが、第1章で主体ごとに現状や課題を記載しており、同じような記載になるので丸ごと削除している。

・ 24 ページ

「第5章 施策の方向と取組項目」のところ、「基本施策3 活動支援の仕組みづくり」の中に施策の方向として「財政的支援の充実」の項目を入れていたが、事務局の方でも検討し、財政的支援とはいっても「(3) 市民公益活動団体の自立を促す支援」に含まれるだろうということで、項目を削除し、組み替えを行っている。

- ・変更点は以上である。

○委員

・全部を一度に協議するのは難しいので、提案であるが、まずは第1章から第3章までを議論する。これは位置づけであったり、現状であったり、評価であったり、これまでの話であったので、話がしやすいと思う。第4章と第5章は、非常に大事だと言われながらも、これまでまともに議論をしたことがない。この審議会では、いきなり施策をこういうふうに変えたらどうかみたいな話から始まった。前回、前々回の会議で、次の5年間を決める推進計画なので、5年後どうあるべきという話をみんなで共有してから、そこに近づけていくためにはこういう基本方針、戦略で臨もうという議論の仕方をすべきだということが、委員の意見として出ていたと思う。この第4章は、たぶんそこに該当する部分、第2期計画の基本方針と書かれているので、第1期の時と比べて、このように状況が変化したので、第2期はこうしようという核の部分だと思う。ただ、お気づきのように非常に記述が弱いので、今日の主な議論としては、第4章の基本方針についていろいろと意見を言うことに時間を使いたいと思う。そのような方針でよろしいか。異議がないようなので、まずは第1章から第3章までを固めていきたいと思う。

- ・まず、私が口火を切るが、計画の対象者のところで、市が一番上にきて、市民が一番下という順番でいいのか。

○事務局

- ・市民が一番上の方が適切であるので、変えたいと思う。

○委員

・第2章の人口と世帯数の推移のところ、前回の資料では、2010年と2015年の人口が16万人を超えていたが、今回の資料では、15万人となっている。この違いは何なのか。

○事務局

・データの出どころが違うので多少の誤差が出ている。前回は住民基本台帳で、今回は国勢調査のデータを使用している。

○委員

- ・他にこんなデータを入れたらいいという意見があればぜひ。
- ・一般世帯の構成員、「一人暮らしが何パーセントで、二人暮らしが何パーセント」みたいな円グラフがあると、より自助共助が難しくなっている現状が出るのではないか。
- ・高齢者を前期高齢者と後期高齢者で分けたほうがいい。

○委員

・グラフのところで、見せ方の問題であるが、世帯数と自治会加入率の推移を一元的に見られるようにした方がいいのではないか。

○委員

・世帯の数は増えているが、自治会加入率が下がっているというのが、ひとつのグラフにまとまっていた方がいいかもしれない。

○委員

・10ページの「自治会数の推移」や「自治会加入率の推移」で、第1期の5年間の数値を出しているが、これはこの期間で良いか、それとももっと前からあったほうが良いのか。

○委員

・このままでいいのではないか。

○委員

・12ページの「ボランティア活動センターへの登録状況、相談件数、コーディネート件数は大きく変化していません。」という書きぶりはこのままでいいのか。

○委員

・第2章の現状のグラフとかデータとかと整合性を合わせようと思ったら、人数自体は、変わっていないので、この書きぶりでいいが、その中で高齢化が進んでいるのが現状で、コミュニティや自治会もそうだが、一人が何役も担うような状況になっているということではないか。

○委員

・コミュニティ組織の書きぶりはこれでいいか。

○委員

- ・いいのではないか。
- ・校区ごとに自治会加入率を出すと、対策を立てる材料になるのではないか。

○委員

・NPO 法人のところを読んで、あまり市の現状がわからない。市民活動センターのことはわかるが、NPO 法人のことについては、活動が活発なのかどうかなどが、よくわからない。

○委員

・14ページの事業者のところ、「そういった取り組みの担い手や支援資金の不足」というところがひっかかっている。支援資金の不足が進んでいるのか。

○委員

- ・「不足が進む」というのは日本語としておかしい。

○事務局

- ・その通りであるので、修正をしたい。

○委員

・14ページの③は事業者について書いているところなので、支援資金というのは事業者が基金を積んで、それが不足していると、素直に読んだらそういう理解になるが、それで良いのか。

○事務局

- ・そういう理解でよい。

○委員

・単に支援資金と市の計画の中に書くと、市が支援をするというようになるのではないか。文言の工夫があってもいいと思う。

○委員

・14ページの市（行政）、これが新たに加わった項目である。この書きぶりでいいか。
・第1期当初と比べて職員の数はどのくらい減っているのか。増減があるとすれば、それを記述することが「現状」の内容になる。

○事務局

- ・減少傾向が続いていたが、直近の3年間では微増という状況である。

○委員

・評価指標のところ、目標値に全く届いていないものがある。これはどういうことかみたいな総括が最後にあったほうが、次の第4章へのつながりがいいと思う。つまり、こういう目標で、こういう指標を設定して、やってきたけれども、これは達成できなかった、という記述。だから、ここをこう変えて頑張るとか、引き続きやるとか、目標値が高すぎたとかの総括があると、第4章につながりやすい。

・「第4章 第2期計画の基本方針」、ここがメインになる。その割には、2ページしかない状況である。事務局に質問だが、肝心の「基本方針」はどれなのか。基本方針について書かれていない。基本理念は、まちづくり推進条例から引用しているが、そこから、いきなり基本施策に飛んでいる。これはなぜなのか。一般的には「理念」があって、「方針」があって、「施策」があって、「事業」があると理解している。基本方針を明記したほうがよい。

○事務局

・そのとおりであるので、基本方針を明記する。

○委員

・22ページの第1期計画期間中の変化のところ、今挙げているのは、「地域分権制度の創設」と「人口減少・少子高齢化の進展」であるが、主にこの推進会議で話をしていたのは、担い手の高齢化・固定化が進んでいて、今までのような名望型のリーダーはおそらく出てこないだろうという認識。だから、それで活動の棚卸しをして、共働きやシングルの人でも関わってもらえるようにしないといけない、という提案ではなかったか。だとすれば、課題のところに「これまでの活動スタイルの限界」みたいなものが、ひとつの柱として入って、さらに基本方針のところ、**「活動スタイルの見直し」**であるとか、「潜在的な人材への呼びかけの工夫」みたいなものが入るのではないかと思うが、いかがか。

○委員

・社協の計画でもその視点を入れていこうと思っている。人材の確保とか育成という部分は、

例えば講座をやる、学びの場を開催するといっても、すぐに50人、100人と増えるものではない。担い手育成や学びの場などを膨らませていく部分と事業の見直しや役割の細分化などが相まって、人材の確保とか育成とかができてくるという話を地域で話していた。

○委員

・今のリーダーをやられている方は、本当に頭が下がる思いであるが、あんなふうに私生活を犠牲にしないといけないと思われてしまうと辛いところがある。

○委員

・一括交付金をもらって事業を行うひとつの方向においても、従来のコミュニティの考えから切り替えるのがなかなかできずにいるというのが実情ではないか。

○委員

・「地域分権制度の理念の浸透」みたいなものも課題に入れておいたほうがいいのかもしい。

○委員

・この間、桜が丘のまちづくりラウンドテーブルに参加した、新しく参加した人が私を含めて2人であった。そのような状況を見ていると、広報に問題があるという気はする。新しい担い手を開拓するのに繋がっているのかと感じる。

○委員

・一応、23ページのところに「情報共有と発信の仕組みづくり」はあるが、これはメディアを使うものが多く、新規開拓といった視点が入っていない。その下の「担い手の発掘・育成の仕組みづくり」のところも合わせて、戦略的な情報発信の仕組みみたいなものはいるかもしれない。活動をやっていると、いろんな情報が入ってくるが、これから活動する人向け

の情報が少ない。

○委員

・地域分権制度の創設で、コミュニティが様々な活動を行っている中で、自治会との役割分担が混乱しているみたいな話が出ていたが、自治会が担う仕事の精査とか、そういったものは施策の中に出ているのか。

○事務局

・今のところ落とし込めていない。

○委員

・書きぶりは難しい。地区によって状況が違うので、「ここまでは自治会、ここからはコミュニティ」みたいな書き方は市全体としてはしづらい。なので、活動の見直し、省力化・効率化の中で、それぞれの地域がこれは自治会の仕事、これはコミュニティの仕事みたいな感じで選び取っていくような形に基本施策としてはせざるを得ないのかなど。それをするには、皆さんがカルテみたいなものを見て、自分たちの地域にはこんな課題がある、こんな潜在的な担い手がいるっていうのをわかった上で、やっていくという意味なので、おそらく施策への落とし込み方としては、「ここから先～」という分け方ではなくて、情報提供と議論の場ぐらいしか書きようがないのかなと思う。

○委員

・社協や市でも地域福祉計画を作っている中で切り口が同じところがあり、たぶん同じテーマが重なり合うところもあって、庁内連携や社協等関係団体との連携や役割分担を通して、効果的にまちづくりを推進していく必要があるのではないかな。

○委員

・庁内の連携体制みたいなものを4章の基本方針のところに書き込むか、5章に入れるかというところである。

・皆さん、現行計画はお持ちか。その10ページが施策の方向が記載されている。実は今回かなり省かれている。「担い手の発掘・育成の仕組みづくり」のところが、施策の方向として1項目になってしまっているの、寂しい感じがする。なので、ここに先ほど言っていた「活動の見直し・棚卸しと省力化・効率化の模索」みたいなものを入れてもいいのではないかと思った。

・「意識啓発の仕組みづくり」のところであるが、前回の計画から、「庁内協働推進体制の整備」と「市民公益活動や協働に対する市民等の意識の向上」が無くなっている。やはり市職員の意識向上だけではなくて、市民もちゃんと地域の現状とか市政に対する市民の理解度を向上させるということが入っていたほうがいいのではないか。

○事務局

・市民の理解度の向上のところであるが、大切なことであると思っているが、前回の計画に記載していた「講座やイベントを通じた市民等の意識の醸成とフォローアッププログラムの提供」は「市民公益活動団体の自立を促す支援」、「地縁団体同士、志縁団体同士または相互の交流会の開催」は「多様な主体の情報が交流する場の充実」の方が当てはまるのではないかと、移動させている。

○委員

・重ねての意見であるが、私は市民の理解と意識の向上について、入れたほうがいいと思う。

○委員

・第5章の方向性の矢印について、取組みを進めて行くということで右肩上がりになっているのだと思うが、施策は当然に進めて行くということなので、当たり前のことなのかと思うが、書き方はこれでいいのか。

○事務局

・施策を進めて行くということは当然のことだと思っている。矢印の上向きについては、この計画ではすべて上向きになっているが、これは基準値と比べて目標値が上になっているということを表しているものであって、今回の計画については、すべて上向きの矢印なのでわかりにくいですが、他の計画では数値を下げるのが目標になることも考えられるので、そういった時に下向きの矢印を使うことになる。この計画については、すべて数値を上げることが目標になるので、上向きの矢印を使用していることになる。

○委員

- ・説明を受ければわかるが、説明を受けなければ「何だろう」ということになるかと思った。
- ・施策評価指標で「自治会やコミュニティの活動に参加している市民の割合」とあるが、これだと自治会かコミュニティのどちらに参加しているのかがわからない。別々にするべきではないか。
- ・ラウンドテーブルについて、そこで出た意見をどのように市政に活かしていくのか。具体的な方法がない状態である。市職員がラウンドテーブルに出られていて、そこで出た意見を何らかの形で反映するような動きをされているのであれば、記述したほうがいいのではないか。

○事務局

・ラウンドテーブルについては、一義的な目的としては、これまでまちづくりに興味が無かった人や参加されていなかった人に対して、参加してもらうきっかけづくりをすることである。ラウンドテーブルで出た意見をすぐ市に持ち帰って、市政に反映させるという側面が全くないという訳ではないが、まずは、より多くの方に参加してもらうことを目的としており、担い手の発掘に繋がればよいと思う。ただ、ラウンドテーブルの場に市の職員もいるので、そこで出た意見を業務に活かしたいと思っている。

○委員

・ラウンドテーブルは直接的な政策提言の場ではないという位置づけであれば、まちづくりのことを考えて提案する場というのが、今のところ計画にはないので、新しい制度として盛り込むようなご提案になるかと思う。

○委員

・せっかくラウンドテーブルがあるので、この場は堅苦しい場ではなくて、いろいろな話をしましょうということによい。話をする側はふわっとした感じで良いが、それを活かす側が、ラウンドテーブルで出た意見を少し詰められるようなものがあるのもいいのではないかと。せっかくやるのだから活かそうということである。

○委員

・タウンミーティングみたいなものを川西市はしているのか。

○事務局

・各部署によって何か新しいことを始めるときに、各種検討会、住民説明会、パブリックコメントやアンケートの実施などのいろいろな手法があるので、状況に応じて使い分けている形になる。

○委員

・今の計画案では、参加した市民がもう一歩進めるということは書いてある。ご意見を受けて、職員がどうするかと書くにあたっては、たとえば「市民公益活動や協働に対する市職員の意識の向上」の中に、「市民が集会等に積極的に出かけて行って、施策の種を拾う」とかを入れるぐらいになるのではないかと。

○委員

・第1期計画については、施策評価指標でみるとわかるとおり、ほとんどが悪い。5年間やってきた中でダメだった部分もあると思う。そこは見直す必要があって、なぜダメだったのか、同じことをやっても同じことが続いてしまうことになりかねないので、今ラウンドテーブルの部分で、わかりやすいところで言うと、別にラウンドテーブルに限らず、いろいろと発信された情報を活かす別のプロジェクトチームのようなものを作っておいて、第三者的に拾い上げていくということがあってもいいのではないかと。市の職員がやる必要はないのかもしれないが、そういうことも考えないと次の5年間で成果が本当に現れるのかということ考えた。

○委員

・ラウンドテーブルでファシリテーターをされている方は、方向性を持っているのかわからない。どういう意図を持って進めているのかは、まだわかっていない。

○委員

・川西市の場合は、何かファシリテーターが引っ張るとか、合意形成するというものではなくて、とにかく意見を言うというものだと思う。川西市の場合は、言いつばなしになっていて、次どうするかステップが見えないのかなという気がしないでもない。そこを課題として書くかどうか。

○委員

・アンケートでもわかるように、市民の方は地域活動に関心はあるが、参加率は落ち込んでいるし、担い手が育っていない。そういう状況なので、ラウンドテーブルに限らず、自由に発言ができて、いろいろな情報を交流させる場が必要ということで、ラウンドテーブルが作られたと思うが、それはそれで敷居を高くせずに行ってもらって、昔でいうと自治会の会合があって、そこに集まって自由に発言しましょうみたいな場があったと思うが、おそらくそう

というのがあったとしたら、自治会の加入率がこれだけ下がるということはなかったかもしれない。もしかしたラウンドテーブルがその役目を代わってやってくれるかもしれないという期待を持っている。そうであれば、話は自由にさせていただいていいが、それを何らかの形で第2期の目標値に近づけるための施策を考えるチームがあってもいいのではないかと思っている。

○委員

・川西市のラウンドテーブルというのは、方向性を決めないふわっとした場、これが第1期である程度定着しつつある。第2期計画の書きぶりとしてそれをもとに階層を広げたりするのはもちろんだけれども、それだけでいいのか。先ほど言っていた政策提案に繋がるようなタウンミーティングとか、決めるようなワークショップとか、ぼちぼち模索していくべきではないかぐらいだったら合意できるかもしれない。今の段階で具体的な施策として書き込むのは難しいと思うが、委員会としては、いずれ言いつぱなしのラウンドテーブルだけでは限界がくる、次の手法に関しても検討を始めるべき—という答申を出すことはできる。それが、行政職員のチームなのか、それとも別のまちづくりワークショップのような合意形成の場なのかかわからないが、この場では結論が出ないと思うので、そこは会長に申し送りをする。

・二つ提案がある。本日に5章のすべての数字まで確認するというのは難しいので、いつまでに意見を出したら反映させるみたいな期間を事務局として設けていただいて、それで気が付いたところがあれば追加で意見を提出する、これは欠席された委員も含めてお願いしたい。また、3章と4章のつながりが悪いので補足が必要。3章で第1期計画の評価として、ほとんど目的が達成されていないのであれば、ここを反省して、4章ではここをこうしますといった、まさに基本方針を書かなければならない。3章の後ろに総括みたいなものを入れるか、第4章のところで、本当の基本方針、このところではダイナミックな方針転換が必要だとか、これは発展しつつ踏襲していくとか、そういうものがあって基本政策のところにとり落とし込んでいく話だと思う。なので、それを11月にもう1回推進会議があると思うが、できれば早めに作って、持ち回りでもいいので、出していただけるといいのではないかと思

う。

○委員

・ラウンドテーブルなどの広報がまずいと思う。張り紙があるが、なかなか小さい字でわからない。私がなぜ桜小の方に行ったかという、自治会の方にパンフレットが送られてきて、希望する方は申し込んでくれということで、このようなことをやっているのかと思い、参加した。なかなか今までそのようなことが無かったので、いろいろな施策の広報がまずいのではないかと思った。

○委員

・ここでは、「多様な媒体による情報の発信」だけであるが、確実に届いているかという話もある。実際に共有とか浸透のところまで書くように改めた方がいいのかもしれない。

○委員

・情報のところについて、自治会が回覧板で配るといような自治会の役割があると思う。一方、コミュニティは皆さんに発信する、その辺がちょっと曖昧で、コミュニティ役割はどのようなだろう、未だによくわからなくて、役割を自治会はこれ、コミュニティはこれというようにできにくいとは思いますが、そういうことをやらないと情報がきっちり伝わりにくいという現状があるのではないか。そういう情報のうまい伝達方法もその施策の中で考えていかないといけない。

○委員

・「財政的支援」の項目を無くしていることについて、意見はないか。

○委員

・どういうふうを考えていいのか、わかりにくい。市としては、現状の変化がこうあって、

課題があがっていて、更に推進していきたいとか市民の活動の自立を促していきたいから財政的支援をあえて削ったとか、方向性が抜けているから、判断のしようがない。方向をはっきり出してもらおうと、判断ができるのかなと思う。

3 その他

〈事務局からの次回に向けての連絡〉

4 閉会